

# 福祉事業所における若年性認知症ケアを考えるシンポジウム

特定非営利活動法人 オレンジハート

〒890-0043 鹿児島県鹿児島市鷹師2丁目5-2

## 助成事業の概要

**目的：**高齢者福祉と障害者福祉の狭間で孤立し、不安や悩みを抱え込みやすい若年性認知症の方とご家族が適切なサービスを受け、安心して暮らせる環境をつくる。

**対象：**高齢者福祉及び障害者福祉に従事する職員

**時期：**令和1年9月7日、かごしま県民交流センター大研修室3

**内容：**専門医による基調講演に併せ、相談支援を行っている鹿児島県若年性認知症支援コーディネーター、鹿児島市長寿あんしん相談センター(地域包括支援センター)、介護計画を作成している介護支援専門員、若年性認知症ケアに取り組んでいる福祉事業所の管理者、自宅で介護をされているご家族をパネリストとして招き、福祉サービスの向上を目的としたシンポジウムを開催。

## 事業の成果

計画当初は30名ほどの参加者を見込んでおりましたが、後援依頼先である鹿児島県の担当部署などからの助言により、定員数を100名に拡大して広報範囲を広げたところ、当日は鹿児島県内各地から定員を上回る108名の参加者が集い、また、開催一月前には参加予約が定員数に達したため、その後の参加予約申込みをお断りするなど、本事業のテーマへの社会的注目度の高さを感じま

した。

参加者アンケートの結果から、専門医の基調講演を通じて「もっと若年性認知症に関する理解を深めたい」と感じられた方が多く、興味関心が高まったことが分かり、また、それぞれ異なる立場から若年性認知症の方と関わっておられる皆様をパネリストとしてお招きし、多角的な視点で意見交換を行った点が参加者に評価されたことが分かり、特に、ご家族の話が印象に残ったという方が多く、「若年性認知症に関する情報は多く発信されているが、実際の対応事例やご家族の話を聞く機会は少ないので有意義だった」とのご意見も寄せられており、当事者たちの生の声を提供できたことが今回の事業の最大の評価ポイントだったと感じます。

加えて、ご家族の話が鹿児島県内で最大の発行部数を誇る南日本新聞の記事として大きく取り上げられ、家族介護者が抱えている不安や、現在の福祉サービスが抱える課題が広く発信されたことにより、今後、同様の活動が広がり、若年性認知症ケアの向上に繋がる期待感が得られました。

## 成果の広報、公表

鹿児島県や鹿児島市を始め、鹿児島県社会福祉士会や介護福祉士会など多くの後援名義が得られ、また、計画人数30名を大きく上回る108名の参加があり、事業への関心の高さが感じられました。

参加者アンケート結果から、専門医の基調講演には「知らないことが多かった、もっと理解を深めたい」との感想が寄せられており、更に関心が高まったことが分かりました。

パネルディスカッションでは多角的な意見が参考になったこと、ご家族を含め当事者たちの話が興味深かったことが分かりました。

また、「自己肯定感が失われないようにする」こと、「介護サービスの視点だけではなく、《働く》という就労サービスの視点からも支援方法を検討する」こと、「就労サービスから介護サービスへ切れ目の無い支援に取り組む」ことが必要との提言に、多くの参加者が新たな気付きを得られた様子でした。

## ■ 今後の展開

---

今回の成果を広く発信・共有し、事業の有意義さを伝えると共に、現在、国や県などが取り組んでいる若年性認知症をテーマとした活動に協力し、若年性認知症の方とご家族が安心してくられる環境づくりに寄与致します。また、本事業を通じ、シンポジウム形式での取り組みが一定の成果を得られることが分かったため、今後も心身機能活性運動療法や薬膳料理、看取りケアや健康運動などをテーマにしたシンポジウムを定期開催し、高齢者の介護予防、認知症予防、心身の健康維持に役立つ活動を実施して、広く社会に貢献致します。